



おかむら通信 203号

令和4年3月号

ご挨拶

みなさま、こんにちは、日頃どうお過ごしですか わたしは政府のいう事と現場の違いに腹が立つことばかりです。さらに現場に疎い医師たちの発する言動にはあきれられるばかりです。一方臨床現場で、文句も言わずに黙々と働く方々には頭が下がるおもいです。

院長 から

- 1 今、約 80 名/月のコロナ感染疑いの方の PCR 検査を時間を決めて外来で行っています。一般の患者さんの診療や、コロナワクチン接種もありますので、検査可能合計人数はぎりぎりです。
- 2 コロナ陽性の方がたには、症状の軽重に応じて、治療薬を出しております。が国が承認したラゲブリオなどは、国の供給体制の課題などがあり、クリニックなどでは効率的に処方することが出来ないでおります。ご了承くださいませ。
- 3 オミクロン株は一見軽症のように見えても、けっこう重症化する患者さんがおられます。また、少なくとも当院での PCR 検査陽性率はけっして低くありません。後遺症も結構ありますので、油断しないようにね。
- 4 外来診療をされていて免疫力が低下している方が増えてきたように思えます。日和見感染、肺炎、ウィルス感染（特に帯状疱疹、）などが出てきますよ。
- 5 最近の医療の進歩により、高齢の方がたの、隠れた腎不全・心不全が発見されるようになってきました。早めに対応すべく準備している所です。
- 6 最近、他専門医へ紹介する患者さんが増えてきました。松戸市内外の病院との連携はすでに密になっています。その疾患は、脳腫瘍・脳内出血・腎不全・心不全・肺癌・大腸がん・危険な胆石症・GIST (gastrointesitinal stromal tumor)・ASO (下肢閉塞性動脈硬化症)・胸腹部大動脈瘤、などです。
- 7 そう、帯状疱疹の神経ブロック治療は、早ければ早いほどよく治ります。
- 8 世の中に悪者が目に見えて増えてきましたね。身近にそして海外にも、極力離れていた方が得策ですよ。いや全く相手にしないにこしたことはありません。
- 9 まだコロナのため、施設へ運動に行けないまじめな人のために、毎日の腹筋、無理のないスクワット、足上げ体操、ふくらはぎ屈伸運動、180°腰ひねり体操、家での簡単ジャンピング、縦横無尽のボクサーパンチング、これだけでも、出来るものを、一日 10 分はいかがですか？
- 10 血管がかかわる病気がほとんどですね。頭のとっぺんから足の先まで見てみてください。そうでしょ？じゃあどうするか、答えの一端がみえてきません

Sleepy ...



か？



～ 2月、院長のWEB講演会や院内外活動です ～

02/WEB 「2型糖尿病特に増えつづける高齢者糖尿病」三咲内科クリニック院長

07/WEB 「高齢者医療に寄り添う漢方薬」あずま会大井戸診療所院長

08/WEB 「糖尿病の次の一手を考える」某クリニック院長

09/WEB 「膠原病の病態と治療の最新知見」聖マリアンナ大学膠原病科教授

16/WEB 「片頭痛を見逃さない頭痛診療のコツ」ながせき頭痛クリニック院長

19/WEB 「若年性認知症診断直後への支援」認知症支援コーディネーター、
「船橋市における多職種連携の取り組み」千葉病院院長

「向精神薬や漢方薬の使い方ー不眠や認知症を中心に」慶応大学客員教授

21/WEB 「冠動脈疾患に対する抗血栓薬療法の最新知見」福岡山王病院 院長

22/WEB 「EPAの脂質異常症を伴う冠動脈疾患の検証」順天堂循環器内科教授

24/WEB 「家族性地中海熱-診断のピットフォールから治療困難例への対応」

信州大学脳神経内科・リウマチ・膠原病科 講師

25/WEB メディコピア教育講演

「ウイルス感染症の現状と問題点」について

東京大学医科学研究所教授/ 日本大学医学部産婦人科教授/

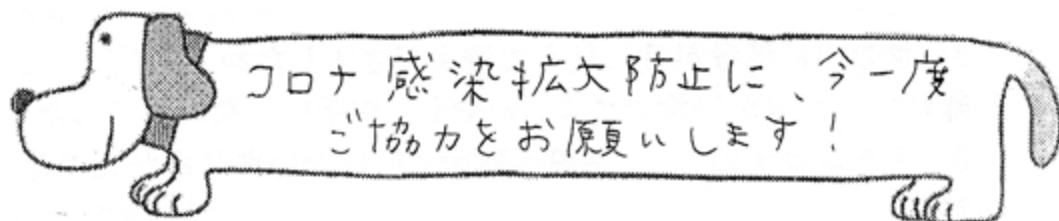
東京大学医科学研究所感染症免疫部門ワクチン科学教授

「話題のウイルス感染症」について

新潟大学小児科学教授/ 倉敷中央病院副院長/

国立国際医療センター感染症センター長

☆ 医者が扱う疾病の範囲はものすごく広いです。どれだけ毎日勉強してもおいつかないのです。ましてやなにも学ばないことは、患者さんに失礼な事この上ないと考えます。



段々日暖かくなってきましたが、コロナさんは衰え矢張りです。当院の発熱外来は、院外でのみ、対応する看護師も分けて行っていますので、ご安心下さい。

数日前に発熱があった方、現在発熱がない場合でもご来院(入室)前にご相談をお願いします。



こいこ七種

